

**2427**
**東証1部**
**株式会社アウトソーシング**
**2013年12月期 第1四半期決算 フォローアップインタビュー概要**

株式会社アウトソーシング(以下、アウトソーシング)による2013年12月期 第1四半期(以下、1Q)の決算発表を受け、代表取締役会長兼社長の土井春彦氏に取材を行いましたので、その概要をご案内いたします。

**2013年12月期第1四半期 連結決算概要**

アウトソーシングによると、1Q前半は予想をはるかに下回って始まった。これは、尖閣諸島問題の影響で在庫調整が発生し、2012年末以降、輸送用機器関係分野で大口径案件キャンセルの影響が長引いたこと、携帯電話の落ち込みで、電気機器分野が不振だったことなどによる。しかし、1Q後半以降、輸送用機器分野での大幅な増産により、事業環境は急激に回復した。その結果、1Qの連結売上高は前年同期比2.3%増の104億円となり、期初予想の103億円を上回った。

一方、1Qの営業損失188百万円は、期初予想の損失52百万円を大きく上回った。これは、3月に発生した輸送用機器分野における急激な増産に対応するため、4月初旬以降、外勤社員の予期せぬ増員があり、立ち上げ費用が追加になったことによる。

**●【表1】2013年12月期 第1四半期 連結決算概要**

(百万円)	12/12月期 1Q	13/12月期 1Q	前年同期比 増減額	増減率
<b>売上高</b>	<b>10,179</b>	<b>10,415</b>	<b>236</b>	<b>2.3%</b>
売上原価	8,247	8,655	408	4.9%
売上総利益	1,932	1,759	173	-9.0%
販売管理費	1,880	1,948	68	3.6%
<b>営業利益</b>	<b>52</b>	<b>188</b>	<b>240</b>	<b>nm</b>
営業外収益	166	197	31	18.7%
営業外費用	148	200	52	35.1%
<b>経常利益</b>	<b>70</b>	<b>191</b>	<b>261</b>	<b>nm</b>
特別利益	16	80	64	400.0%
特別損失	47	0	47	nm
<b>当期純利益</b>	<b>9</b>	<b>121</b>	<b>112</b>	<b>nm</b>
<b>【対売上高比率】</b>				
売上原価率	81.0%	83.1%		
売上総利益率	19.0%	16.9%		
販売管理費率	18.5%	18.7%		
営業利益率	0.5%	-1.8%		
経常利益率	0.7%	-1.8%		
当期純利益率	-0.1%	-1.2%		

出所：(株)アウトソーシング開示データ

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

1Qにおいて、売上増と将来のM&Aに向けての手元流動性確保のため、短期借入金を13億円増やした結果、現預金が増加した。また、子会社株式の取得により、投資その他の資産が14億円増加した。専ら派遣の禁止がもたらす事業機会の成長を目指す戦略の一環として、同社は、1月31日、システム・ソリューションとネットワーク・ソリューションに特化し、有能なシステム・ソフトウェアの技術者を有するNECインフロンティアの関係会社、CSLの株式取得を発表した。その後、2月28日付で、CSLの持ち株を80.9%から85.8%に増やした(法規制改正に関する概要については、(株)トリアスの株式会社アウトソーシング3Q取材メモをご参照ください)。利益剰余金は、1Qの純損失2億円から若干減少した結果、株主資本比率が微減した。アウトソーシングでは、発表済みの通期配当金8円/株に加え、3月の東証1部指定替えを記念して、5円/株の中間配当を発表し、年間配当金を13円/株とした。

●【表2】2013年12月期 第1四半期末 連結貸借対照表の概要

(百万円、%)	12/12月期 4Q末	構成比	13/12月期 1Q末	構成比	前期末比 増減額
流動資産	9,431	68.0%	11,070	65.5%	1,639
現金・預金	3,363	24.3%	4,645	27.5%	1,282
受取手形・売掛金	5,232	37.7%	5,206	30.8%	△26
たな卸資産	132	1.0%	125	0.7%	△7
固定資産	4,433	32.0%	5,837	34.5%	1,404
有形固定資産	2,008	14.5%	2,016	11.9%	8
無形固定資産	1,372	9.9%	1,385	8.2%	13
投資その他の資産合計	1,051	7.6%	2,435	14.4%	1,384
<b>資産合計</b>	<b>13,866</b>	<b>100.0%</b>	<b>16,909</b>	<b>100.0%</b>	<b>3,043</b>
流動負債	6,875	49.6%	9,113	53.9%	2,238
支払手形・買掛金	208	1.5%	281	1.7%	73
短期借入金	2,574	18.6%	3,856	22.8%	1,282
未払金	2,341	16.9%	2,783	16.5%	442
固定負債	2,478	17.9%	3,252	19.2%	774
長期借入金	1,582	11.4%	1,925	11.4%	343
<b>負債合計</b>	<b>9,354</b>	<b>67.5%</b>	<b>12,366</b>	<b>73.1%</b>	<b>3,012</b>
株主資本	4,008	28.9%	3,774	22.3%	△234
資本金	485	3.5%	486	2.9%	1
資本剰余金	881	6.4%	882	5.2%	1
利益剰余金	3,032	21.9%	2,796	16.5%	△236
自己株式	△391	-2.8%	△391	-2.3%	0
その他包括利益累計額	78	0.6%	121	0.7%	43
新株予約権	103	0.7%	119	0.7%	16
少数株主持分	321	2.3%	526	3.1%	205
<b>純資産合計</b>	<b>4,511</b>	<b>32.5%</b>	<b>4,542</b>	<b>26.9%</b>	<b>31</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>13,866</b>	<b>100.0%</b>	<b>16,909</b>	<b>100.0%</b>	<b>3,043</b>

出所:(株)アウトソーシング開示データ

1Qの売上高は最終的に予想を上回ったが、営業利益は期初予想を大幅に下回り、136百万円の未達となった。これは主に、4月以降の増員対応で、3月に輸送機器メーカーから想定以上、かつ急激な受注拡大があったことによる。【表3】からわかるように、1Qに310人の外勤社員を追加採用し、60百万円の立ち上げ費用が先行的に発生した。アウトソーシングが派遣契約から請負契約への転換を強化していた最中、生産の急速な回復により、顧客メーカーが派遣期間の上限である3年以前に終了予定だった派遣契

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

約の計画を変更したことも影響し、1Qの粗利率は一時的に17.1%まで下がったが(会社予想は20.5%)、今後は、2Q 21.1%、3Qが23.9%、4Q 23.0%と、粗利率が回復の見通しとなっている。会社側では、2Qから4Qにかけて、急激な生産回復による追加売上高を14億円と見込んでいる。平均22.7%の粗利率を前提とすると、売上総利益で318百万円の上乗せになる。

### ●【表3】3月に急増した採用人数

(人数、百万円)	13/12月期 1Q計画	13/12月期 1Q実績	差分	立上費用	2Q~4Q 追加売上高
派遣・請負採用人数	982	1,292	310	60	900
採用人数	3,358	3,558	200		500
追加売上高合計	-	-	-	-	1,400

出所：(株)アウトソーシング開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

事業領域の拡大に伴い、事業の実体に沿った、より正確な開示を行うため、アウトソーシングは、1Q決算から報告事業セグメントを変更すると発表した。【表4】は、この変更を要約したもののだが、その骨子は、従来の国内生産アウトソーシング事業を製造系アウトソーシング事業と技術系アウトソーシング事業に分類していることと、従来の4セグメントのうち、3セグメントの名称を変更したことにある。ただし、事業内容としては、従来セグメントから変更はない。

### ●【表4】新分類による事業セグメントの概要

	変更前	変更後
生産アウトソーシング事業	国内生産アウトソーシング事業 海外生産アウトソーシング事業	製造系アウトソーシング事業 技術系アウトソーシング事業
管理アウトソーシング事業	管理業務アウトソーシング事業 採用代行アウトソーシング事業	海外事業 管理系アウトソーシング事業 人材紹介事業
その他事業		その他の事業

出所：(株)アウトソーシング開示資料

### ●【表5】2012年12月期 新分類による事業セグメント業績概要

(百万円) 旧詳細セグメント	12/12月期 上半期	12/12月期 下半期	12/12月期 通期	(百万円) 新セグメント	12/12月期 上半期	12/12月期 下半期	12/12月期 通期
売上高	20,408	21,682	42,090	売上高	20,408	21,682	42,090
国内生産アウトソーシング	18,055	18,850	36,905	製造系アウトソーシング	12,579	12,020	24,600
海外生産アウトソーシング	1,997	2,542	4,539	技術系アウトソーシング	5,476	6,831	12,308
管理業務アウトソーシング	303	330	633	海外事業	1,997	2,542	4,539
採用代行アウトソーシング	257	179	436	管理系アウトソーシング	303	330	633
その他の事業	79	73	152	人材紹介事業	257	179	436
内部消去	286	295	582	その他の事業	79	73	152
営業利益	249	750	1,000	内部消去	286	295	582
国内生産アウトソーシング	246	533	779	営業利益	249	750	1,000
海外生産アウトソーシング	76	38	38	製造系アウトソーシング	19	94	113
管理業務アウトソーシング	90	158	248	技術系アウトソーシング	227	440	667
採用代行アウトソーシング	78	70	148	海外事業	76	38	38
その他の事業	4	3	8	管理系アウトソーシング	90	158	248
消去または全社	93	56	149	人材紹介	78	70	148
				その他の	4	3	8
				消去又は全社	93	56	149

出所：(株)アウトソーシング開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

売上高の業種別分類も変更された。【表 6】では、2012年12月期の業種別売上高を新分類でまとめている。主力事業を製造系アウトソーシングと技術系アウトソーシングに分類したうえで、新たに建設・プラント関係とアフターサービスの2業種を追加した。また、海外事業は、旧分類によるその他事業から切り離れた。この結果、事業セグメントは、5事業から6事業に、業種は7業種から15業種に増加した。

●【表 6】2012年12月期 新分類による業種別売上高

旧分野別 (百万円)	12/12月期 上半期	12/12月期 下半期	12/12月期 通期	新分野別 (百万円)	12/12月期 上半期	12/12月期 下半期	12/12月期 通期
<b>生産アウトソーシング事業</b>	<b>19,768</b>	<b>21,127</b>	<b>40,895</b>	<b>製造系アウトソーシング事業</b>	<b>12,303</b>	<b>11,875</b>	<b>24,178</b>
輸送用機器関係	6,245	5,708	11,954	輸送用機器関係	4,254	3,368	7,623
電気機器関係	3,703	4,079	7,782	電気機器関係	2,516	2,803	5,320
化学・薬品関係	2,093	2,302	4,396	化学・薬品関係	1,732	1,929	3,662
金属・建材関係	1,919	1,820	3,740	金属・建材関係	1,903	1,802	3,706
IT関係	1,005	1,950	2,956	食品関係	866	872	1,739
食品関係	868	986	1,854	その他	1,029	1,098	2,127
その他	3,932	4,278	8,211	<b>技術系アウトソーシング事業</b>	<b>5,470</b>	<b>6,789</b>	<b>12,260</b>
				輸送用機器関係	1,974	2,134	4,108
				電気機器関係	1,159	1,142	2,301
				化学・薬品関係	358	370	728
				金属・建材関係	13	9	23
				IT関係	905	1,863	2,769
				建設・プラント関係	-	-	-
				アフターサービス	-	-	-
				その他	1,059	1,269	2,328
				<b>海外事業</b>	<b>1,994</b>	<b>2,462</b>	<b>4,457</b>

出所：(株)アウトソーシング開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

ここで、1Q 決算を新分類で分析してみたい。【表 7】は、業種別売上高の四半期推移を示している。製造系アウトソーシング事業では、尖閣諸島問題に端を発した大規模な生産調整の影響を受け、輸送用機器関係の低迷が続いた。加えて、携帯電話の生産調整に伴い、電気機器関係の需要も落ち込んだ。一方で、技術系アウトソーシング事業は全く異なる動きとなった。アウトソーシングでは、重点施策として、生産の繁閑サイクルと連動しない業種への分散に注力しているが、1Q は、ビッグデータ関連システムなどの需要に牽引され、IT 関係の売上高が輸送用機器関係を抜き、技術系アウトソーシング事業で最大となった。

海外事業の売上高は、前四半期比 17.5%増、前年同期比 48.5%増となり、引き続き堅調に拡大した。会社側では、1Q にタイで 1,400 人の追加採用を行った。立ち上げ当初は、先行投資と立ち上げ費用により、利益が抑えられるが、今後、同事業の利益貢献が大きくなることが予想される。製造系アウトソーシング事業の売上構成比は、前年同期比 14.9%減の 47.6%になったものの、技術系アウトソーシング事業の構成比が同 10.6%増の 37.9%となり、海外事業のそれが同 4.4%増の 14.6%になった点に注目したい。

さらに、事業セグメントの新分類により顕在化したのが、技術系アウトソーシング事業の利益貢献度である。2012年12月期は、営業利益(内部又は全社消去前)のうち、技術系アウトソーシング事業が3分の2を占め、管理系アウトソーシング事業が4分の1を占めた。会社側によると、昨年の大規模な生産調整の影響で、メーカーの多くは、派遣契約期間の上限である3年を迎えるにあたり、クーリングオフ期間を利用して、その後の雇用を見直したが、メーカーの直接雇用への切替え需要は堅調で、管理系アウトソーシング

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

事業による利益貢献も依然として大きくなった。

●【表7】業種別売上高構成の四半期推移

(百万円、%)	12/12月期				13/12月期	前年 同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
<b>製造系アウトソーシング事業</b>	<b>6,147</b>	<b>6,155</b>	<b>6,031</b>	<b>5,843</b>	<b>4,834</b>	<b>-21.4%</b>
輸送用機器関係	2,119	2,135	1,849	1,518	1,355	-36.1%
電気機器関係	1,230	1,285	1,405	1,398	1,049	-14.7%
化学・薬品関係	869	863	909	1,019	897	3.2%
金属・建材関係	995	907	942	860	675	-32.2%
食品関係	439	427	425	447	378	-13.9%
その他	493	535	500	598	478	-3.0%
<b>技術系アウトソーシング事業</b>	<b>2,686</b>	<b>2,784</b>	<b>3,222</b>	<b>3,566</b>	<b>3,850</b>	<b>43.3%</b>
輸送用機器関係	1,073	900	981	1,152	1,126	4.9%
電気機器関係	515	643	559	582	532	3.3%
化学・薬品関係	170	187	182	188	213	25.3%
金属・建材関係	7	6	4	4	1	-85.7%
IT関係	426	479	852	1,010	1,344	215.5%
建設・プラント関係	-	-	-	-	72	nm
アフターサービス	-	-	-	-	34	nm
その他	491	567	640	628	525	6.9%
<b>海外事業</b>	<b>998</b>	<b>996</b>	<b>1,201</b>	<b>1,261</b>	<b>1,482</b>	<b>48.5%</b>
<b>構成比</b>						
製造系アウトソーシング事業	62.5%	62.0%	57.7%	54.8%	47.6%	
技術系アウトソーシング事業	27.3%	28.0%	30.8%	33.4%	37.9%	
海外事業	10.2%	10.0%	11.5%	11.8%	14.6%	
<b>【国内主要業種】</b>						
輸送用機器関係	32.5%	30.5%	27.1%	25.0%	24.4%	
電気機器関係	17.7%	19.4%	18.8%	18.6%	15.6%	
化学・薬品関係	10.6%	10.6%	10.4%	11.3%	10.9%	
金属・建材関係	10.2%	9.2%	9.0%	8.1%	6.6%	
IT関係	4.3%	4.8%	8.1%	9.5%	13.2%	

出所：(株)アウトソーシング開示データ

注：管理系アウトソーシング事業及び人材紹介事業、その他の事業は含まず

●【表8】連結業績の四半期推移

(百万円)	12/12月期				13/12月期	前年 同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
売上高	10,179	10,228	10,719	10,963	10,415	2.3%
売上総利益	1,932	2,104	2,131	2,304	1,759	-9.0%
販売及び一般管理費	1,880	1,906	1,844	1,840	1,948	3.6%
営業利益	52	197	286	463	-188	-
経常利益	70	238	321	523	-191	-
四半期純利益	-9	-14	228	436	-121	-
<b>(利益率)</b>						
売上総利益率	19.0%	20.6%	19.9%	21.0%	16.9%	-
販管比率	18.5%	18.6%	17.2%	16.8%	18.7%	-
営業利益率	0.5%	1.9%	2.7%	4.2%	-1.8%	-
経常利益率	0.7%	2.3%	3.0%	4.8%	-1.8%	-
四半期純利益率	-0.1%	-0.1%	2.1%	4.0%	-1.2%	-

出所：(株)アウトソーシング開示データ

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**2013年12月期 連結業績予想**

1Qの売上高は予想を上回ったが、3月の予期せぬ増員に伴い、先行投資や立ち上げ費用が発生し、営業利益は、期初予想を136百万円下回った。アウトソーシングでは、1Q決算後に業績予想を修正しなかったため、【表9】にあるとおり、2Qの営業利益見込みが453百万円となっている。現時点では、1Qの未達分を2Qで挽回できるかわからないが、土井会長によれば、輸送用機器関係の需要は極めて強いとのことだ。乗用車と軽自動車に多くの新モデルが発売される今年は、エコカー補助金の影響で国内需要が高水準にあった昨年と比べても、自動車販売は極めて堅調との見通しだ。ちなみに、トヨタ自動車は、上半期の国内生産計画を15万台引上げ、165万台とした。

**●【表9】 2013年12月期 上半期・通期業績予想**

(百万円、%)	1Q		13/12月期		上半期 期初予想	下半期 期初予想	通期 期初予想
	期初予想	1Q 実績	2Q 期初予想	2Q 見込			
売上高	10,354	10,415	11,976	11,915	22,330	27,670	50,000
営業利益	52	188	317	453	265	1,255	1,520
経常利益	-	191	-	491	300	1,290	1,590
当期純利益	-	121	-	276	155	845	1,000
<b>【利益率】</b>							
営業利益率	-0.5%	-1.8%	2.6%	3.8%	1.2%	4.5%	3.0%
経常利益率	-	-1.8%	-	4.1%	1.3%	4.7%	3.2%
当期純利益率	-	-1.2%	-	2.3%	0.7%	3.1%	2.0%
<b>【前年同期比・前期比】</b>							
売上高	1.7%	2.3%	17.1%	16.5%	9.4%	27.6%	18.8%
営業利益	-	-	60.9%	129.9%	6.4%	67.1%	52.0%
経常利益	-	-	-	106.3%	-2.9%	52.8%	37.9%
当期純利益	-	-	-	nm	nm	27.3%	56.0%

出所：(株)アウトソーシング開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

【表10】は、事業セグメント別業績予想を示している。1Qの営業利益が期初予想を下回った要因としては、1)製造系アウトソーシング事業における追加立ち上げ費用の発生(3月の予期せぬ増員のため)、2)海外事業における追加立ち上げ費用の発生(タイ、ベトナムなど)、3)想定以上の全社費用の発生などが挙げられる。売上成長が想定どおりで、1Qの営業利益未達が今後の収益につながる立ち上げ費用によるものと前提すると、未達そのものは大きな懸念とはならないが、問題は、期初の下半期業績予想が楽観的すぎたのではないかという点にある。

当社のこの問いに対して土井会長は、技術系アウトソーシング事業における増収見込み38億円の内訳として、IT関係が17億円、建築施工管理技士派遣事業が7億円、電気製品アフターサービス事業が8億円であると述べている。さらに、海外事業が14億円弱の大きな伸長を見込んでいる(【表11】をご参照ください)。一方、従来業種に関しては、低水準にあった前中間期に比べ、下半期は微増収を見込んでいくにすぎない。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**●【表10】2013年12月期 上半期・通期 セグメント別業績予想**

(百万円、%)	1Q		13/12月期		上半期	下半期	通期
	期初予想	1Q実績	2Q	2Q			
			期初予想	見込	期初予想	期初予想	期初予想
<b>売上高</b>	<b>10,354</b>	<b>10,415</b>	<b>11,976</b>	<b>11,915</b>	<b>22,330</b>	<b>27,670</b>	<b>50,000</b>
製造系アウトソーシング事業	5,009	4,891	5,570	5,688	10,579	12,393	22,972
技術系アウトソーシング事業	3,660	3,882	4,317	4,095	7,977	10,646	18,623
管理系アウトソーシング事業	183	164	263	282	446	715	1,161
人材紹介事業	49	38	64	75	113	135	248
海外事業	1,504	1,513	1,835	1,826	3,339	3,911	7,250
その他の事業	47	48	47	46	94	96	190
内部消去	98	123	122	97	220	229	449
<b>営業利益</b>	<b>52</b>	<b>188</b>	<b>317</b>	<b>453</b>	<b>265</b>	<b>1,255</b>	<b>1,520</b>
製造系アウトソーシング事業	87	255	185	353	98	298	396
技術系アウトソーシング事業	0	112	11	101	11	610	621
管理系アウトソーシング事業	24	45	64	43	88	217	305
人材紹介事業	15	15	20	20	35	42	77
海外事業	33	18	75	126	108	162	270
その他の事業	4	5	3	2	7	7	14
消去または全社	43	93	43	7	86	86	172

出所：(株)アウトソーシング開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

注：新事業セグメントの発表は1Q発表時

生産アウトソーシング事業(旧セグメント)の1Qの当初予想は売上高8,669百万円、営業利益△87百万円、

2Q予想は売上高9,889百万円、営業利益196百万円

**●【表11】2013年12月期 下半期 セグメント別期初業績予想**

(百万円、%)	12/12月	13/12月	前年同期比	
	期	期	増減額	増減率
	下半期	下半期		
<b>売上高</b>	<b>21,682</b>	<b>27,670</b>	<b>5,988</b>	<b>27.6%</b>
製造系アウトソーシング事業	12,020	12,393	373	3.1%
技術系アウトソーシング事業	6,831	10,646	3,815	55.8%
海外事業	2,542	3,911	1,369	53.9%
管理系アウトソーシング事業	330	715	385	116.7%
人材紹介事業	179	135	44	-24.6%
その他の事業	73	96	23	31.5%
内部消去	295	229	66	-
<b>営業利益</b>	<b>750</b>	<b>1,255</b>	<b>505</b>	<b>67.3%</b>
製造系アウトソーシング事業	94	298	204	217.0%
技術系アウトソーシング事業	440	610	170	38.6%
海外事業	38	162	124	326.3%
管理系アウトソーシング事業	158	217	59	37.3%
人材紹介事業	70	42	28	-40.0%
その他の事業	3	7	4	133.3%
消去又は全社	56	86	30	-

出所：(株)アウトソーシング開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**●【表 12】 派遣・請負採用人数の四半期推移**

採用人数	決算期	13/12月期				通期
		1Q	2Q	3Q	4Q	
<b>【外勤社員数】</b>						
製造系アウトソーシング事業	12/12月期 実績	6,279	6,229	5,871	5,550	5,550
	12/13月期 予想	*	6,077	6,695	6,888	6,888
	12/13月期 実績	5,313	-	-	-	-
技術系アウトソーシング事業	12/12月期 実績	1,600	1,597	1,818	1,902	1,902
	12/13月期 予想	*	2,453	2,777	2,937	2,937
	12/13月期 実績	2,097	-	-	-	-
<b>【外勤社員数】</b>						
管理系アウトソーシング事業	12/12月期 実績	8,500	5,070	5,879	6,467	6,467
	12/13月期 予想	6,300	8,700	11,400	13,200	13,200
	12/13月期 実績	6,149	-	-	-	-
<b>【有料紹介人数】</b>						
人材紹介事業	12/12月期 実績	512	694	498	511	2,215
	12/13月期 予想	350	462	547	389	1,748
	12/13月期 実績	261	-	-	-	-

出所：(株)アウトソーシング開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

注：新事業セグメントは1Q決算時に発表

期初予想では、製造系アウトソーシング事業の1Q外勤社員数は7,502名、製造系・技術系の外勤社員数合計は7,410名

**●【表 13】 2013年12月期 採用計画**

	12/12月期	13/12月期				通期
	通期 実績	1Q 予想	2Q 予想	3Q 予想	4Q 予想	
<b>【派遣・請負】</b>						
採用人数(人)	6,789	948	1,672	1,818	1,070	5,508
採用単価(円/人)	49,443	48,000	45,000	44,000	42,500	44,701
2か月後定着率	65.9%	69.0%	70.5%	71.0%	72.5%	70.8%
定着採用単価	75,027	69,565	63,830	61,972	58,621	63,141
<b>【有料職業紹介】</b>						
採用人数(人)	2,139	350	462	547	389	1,748
採用単価(円/人)	109,807	120,000	113,000	106,000	100,000	109,318
<b>【技術系・その他】</b>						
採用人数(人)	578	258	373	306	292	1,229
採用単価(円/人)	226,998	316,547	211,823	221,761	210,993	236,085

出所：(株)アウトソーシング開示データ

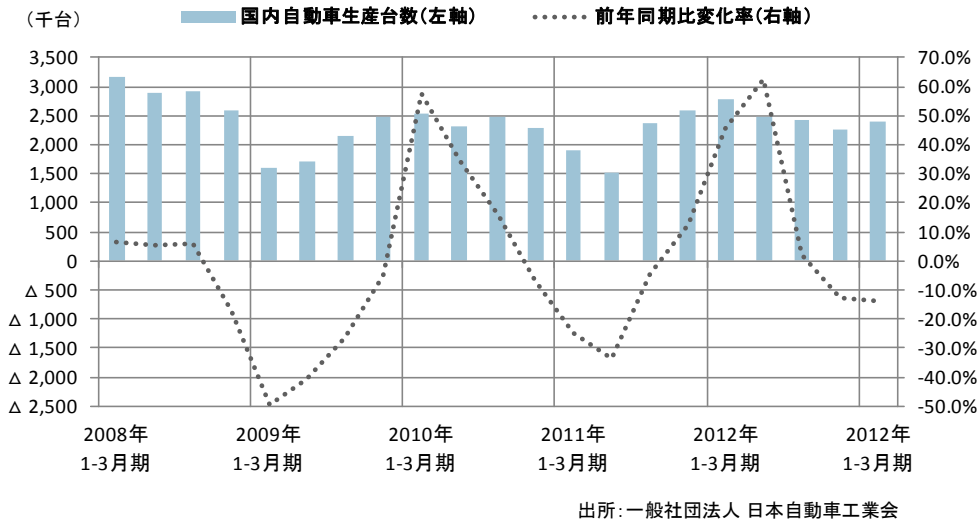
**【トピック】 2013年12月期の重点施策：持続可能な成長に向けた多様な戦略**

直近で海外投資家と話し合ったところ、自動車産業のアウトソーシング需要について、一様に誤解があることがわかった。すなわち、国内自動車生産の水準が自動車産業のアウトソーシング需要と連動するという誤解である。もちろんある一定の相関関係はあるものの、実際のアウトソーシング需要は、1)労働力の多角化ニーズのある国内メーカーが長期的な視点からの構造変革を行う場合、ならびに2)短期的に生産が大幅に拡大する場合に発生している。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。



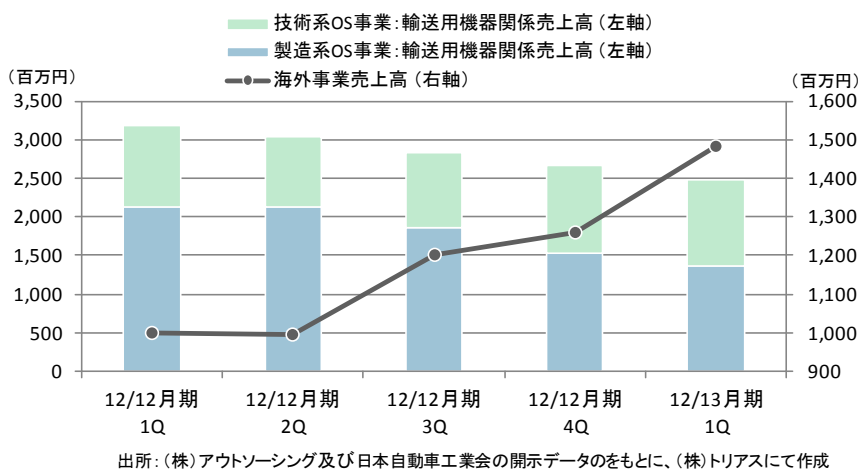
●【グラフ1】自動車産業のアウトソーシング需要に関する誤解



【グラフ1】は、リーマンショック後の増産期を除き、輸送用機器関係のアウトソーシングサービスが、国内自動車生産動向やその水準と、さほど大きな相関関係を持っていないことを示している。例えば、1Q(1-3月期)の国内自動車生産台数は、前年同期比14%減少したにもかかわらず、輸送用機器関係のアウトソーシング売上高は、それを大幅に上回る22%減だった。一方、2Q(4-6月期)の国内自動車生産が約6%減となっているのに対し、会社側によれば、アウトソーシング需要は堅調とのことだ。

【グラフ2】を見ると、輸送用機器関係の需要に何が起きているかが推察できる。1Qの製造系アウトソーシング事業は前年同期比36.1%減少したのに対し、技術系アウトソーシング事業は同4.9%増加した。さらに、輸送用機器関係の主要顧客メーカーが関わる海外アウトソーシング事業は、前年同期比48.5%と、拡大傾向にある。

●【グラフ2】輸送用機器関係売上高に占める技術系アウトソーシング事業の割合が33%から45%に上昇



このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

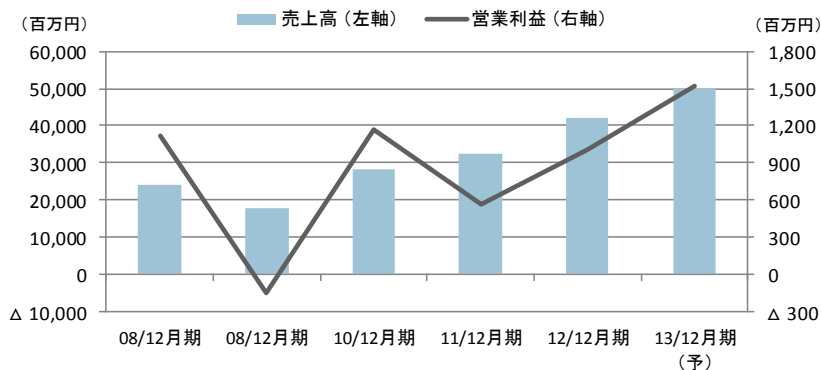
この背景として、1)生産の繁閑サイクルと連動しない分野での多角化、2)海外事業拡大の継続、3)法改正や政策面での変化に対応するためのグループシナジー強化と包括的なソリューションの提供(CSLの買収等)、4)採用の効率化(2ヶ月以上の定着)といった、アウトソーシングの当期重点施策がある。

●【表 14】 業種の多角化と海外事業拡大による高い成長

売上高 (百万円)	13/12月期					前期比
	1Q 実績	2Q 予想	3Q 予想	4Q 予想	通期 予想	
IT関係	1,344	1,390	1,766	1,800	6,300	127.5%
建設・プラント関係	72	125	300	403	900	新規
アフターサービス	34	163	491	312	1,000	新規
<b>生産の繁閑に連動しない事業合計</b>	<b>1,450</b>	<b>1,678</b>	<b>2,557</b>	<b>2,515</b>	<b>8,200</b>	<b>196.1%</b>
<b>海外事業</b>	<b>1,513</b>	<b>1,835</b>	<b>1,910</b>	<b>2,001</b>	<b>7,250</b>	<b>62.8%</b>

出所：(株)アウトソーシング開示データをもとに、(株)トリアスにて作成

●【グラフ 3】 金融危機をよそに、5年複利成長率は売上高 15.7%増、営業利益 6.4%増を達成



細かな分析にこだわりすぎると、「木を見て森を見ず」という状況に陥りやすいが、アウトソーシングの事業を俯瞰すると、金融危機がもたらした信用収縮のマイナス影響で、大幅な減産が起きたにもかかわらず、2009年12月期は25.6%の減収にとどまり、翌期には58.0%の増収と、リーマンショック以前の水準を17%以上、上回った。また、2011年3月の大震災後、大規模な混乱が採用費増をもたらした、2011年12月期の利益はマイナス影響を受けたものの、グループ売上高と利益は、過去5年間にわたり、拡大傾向にある。

アウトソーシンググループの成長は、経営陣が危機を大きなビジネス機会と捉え、多額な投資を行ってきた結果だと当社では考えている。これにより、海外事業が急速に拡大し、生産の繁閑サイクルと連動しない新業種での多角化への取り組みを進めることができた。また、法改正や政策に直面する顧客ニーズに対し、包括的なソリューションを提供するため、継続的にM&Aを実行してきた。今後、投資規模が徐々に縮小し、これまでの先行投資を回収する局面に入ると、利益率の拡大が予想される。高度化する顧客ニーズを満たし、雇用を通じ社会に貢献する—このミッションに基づき、将来の成長機会への投資を断行することがアウトソーシンググループの姿勢であると土井会長は強調する。

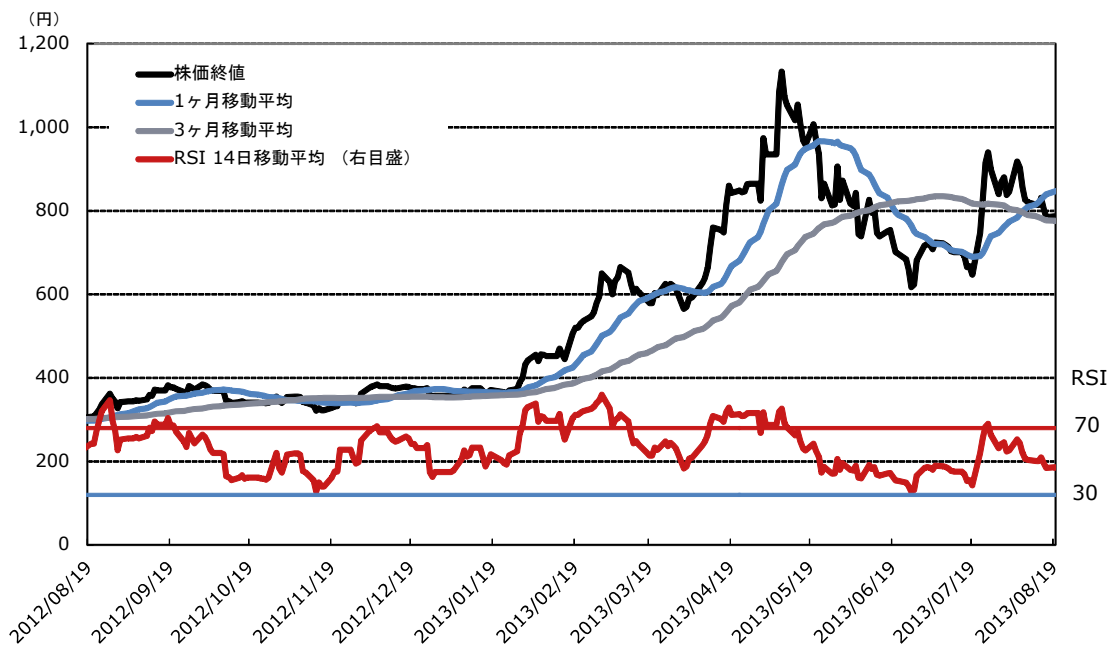
このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**参考情報**
**● 連結主要指標と業績の推移**

発行済株式数(株)	2012.12月	15,569,800	総資産(百万円)	2012.12月	13,866
うち自己株式数(株)	2012.12月	1,139,500	自己資本(百万円)	2012.12月	4,087
時価総額(百万円)	2013.8.19	12,253	有利子負債(百万円)	2012.12月 (※)	4,502
1株当たり純資産(円)	2012.12月	283.2	自己資本比率(%)	2012.12月	29.5
ROE(%)	2012.12月	15.7	有利子負債比率(%)	2012.12月	110.2
ROA(%)	2012.12月	4.7	フリーキャッシュフロー(百万円)	2012.12月	306
PER(倍)	2013.12月予	11.4	注: ROE=当期純利益÷期末自己資本		
PCFR(倍)	2012.12月	12.7	ROA=当期純利益÷期末総資産		
PBR(倍)	2012.12月	2.8	PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)		
株価(円)	2013.8.19	787	日々平均出来高=東証2部上場来平均		
単元株数(株)	2013.8.19	100	有利子負債比率=有利子負債÷自己資本		
日々平均出来高(株)	2013.8.19	127,432	フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF		
			※ 有利子負債には割賦未払金(1年以内)を含む		

連結(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)
2008年12月期	24,148	1,113	1,134	641	5,412.28	644.00
2009年12月期	17,964	150	22	215	1,511.00	644.00
2010年12月期	28,386	1,173	1,401	760	52.46	7.21
2011年12月期	32,397	563	702	194	13.48	8.00
2012年12月期	42,090	1,000	1,153	641	44.46	8.00
予2013年12月期上半期	22,330	265	300	155	10.74	5.00
予2013年12月期	50,000	1,520	1,590	1,000	69.29	13.00

注: 2013年12月期予想は、2013年4月26日発表の会社予想

**● 株価チャートとRSI**


出所: Bloomberg L.P. のデータをもとに(株)トリアスにて作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ度」や「売られ過ぎ度」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われている  
RSI= N日間の値上がり幅平均÷(N日間の値上がり幅平均+N日間の値下がり幅平均)×100

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。